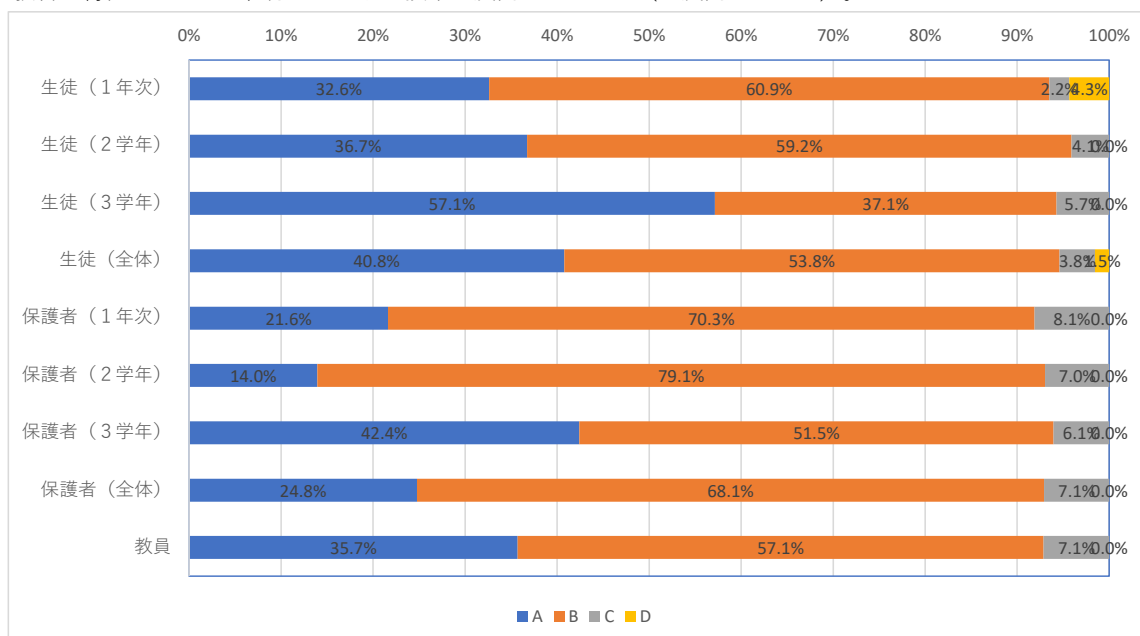


令和5年度 学校評価アンケート 中間反省

		在籍数	回答数	回答率
生徒	全体	131	130	99.2%
	1年次	47	46	97.9%
	2学年	49	49	100.0%
	3学年	35	35	100.0%
保護者	全体	131	113	86.3%
	1年次	47	37	78.7%
	2学年	49	43	87.8%
	3学年	35	33	94.3%
教員		29	28	96.6%

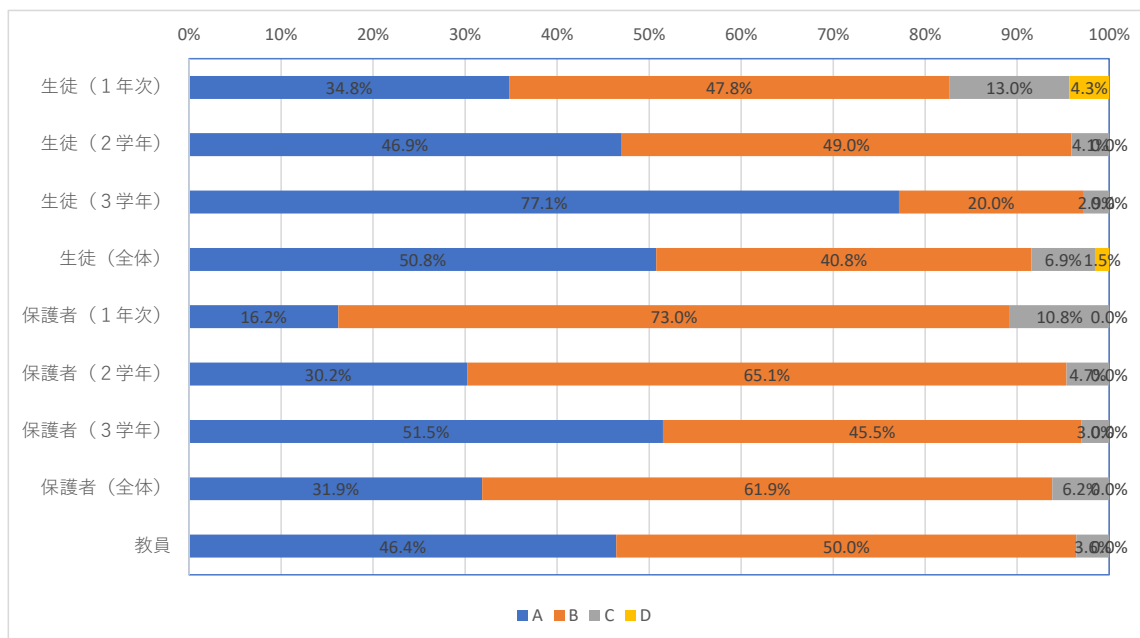
福島県立南会津高等学校本校舎
学校評価委員会

1. 教科の特性を生かして、分かりやすい授業が展開されている（を展開している）。



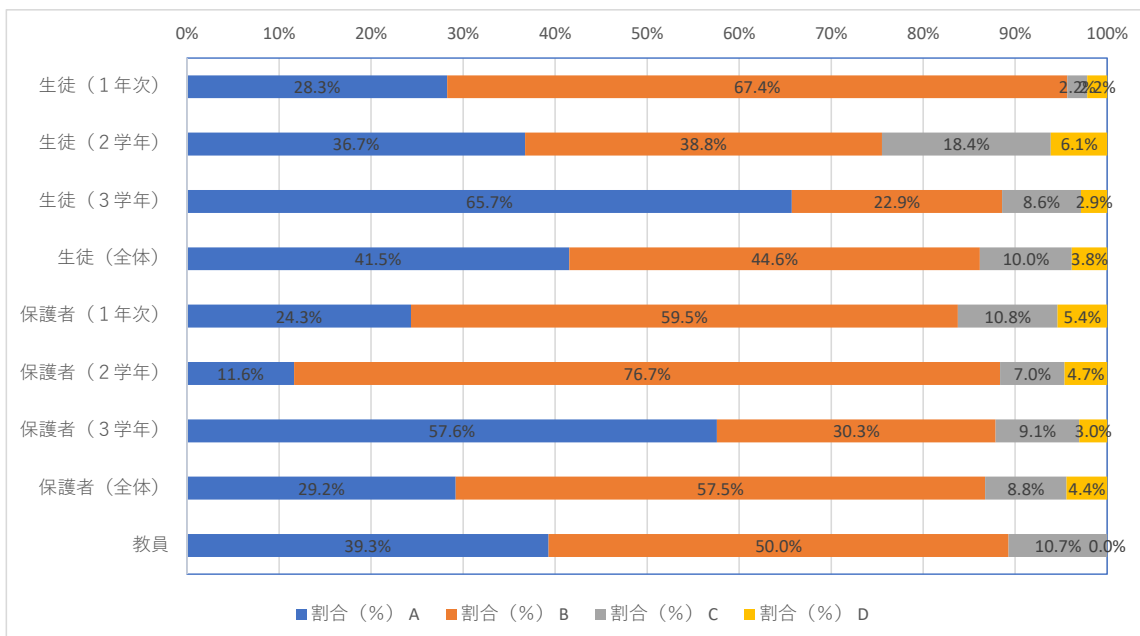
○各教科においては、生徒の進路状況を踏まえ、基礎・基本の定着にとどまらず、学力向上を意識した学習指導を展開している。観点別評価の取り組み等についても担当者間の情報共有を更に推し進めながら、今後も継続して、各教科等における実践を全教職員間で共有し、授業の在り方等についても検討を進めていく必要がある。

2. 進路の実現に向けて、進路ガイダンスや講演会が十分に行われ、説明会や課外などが充実している。



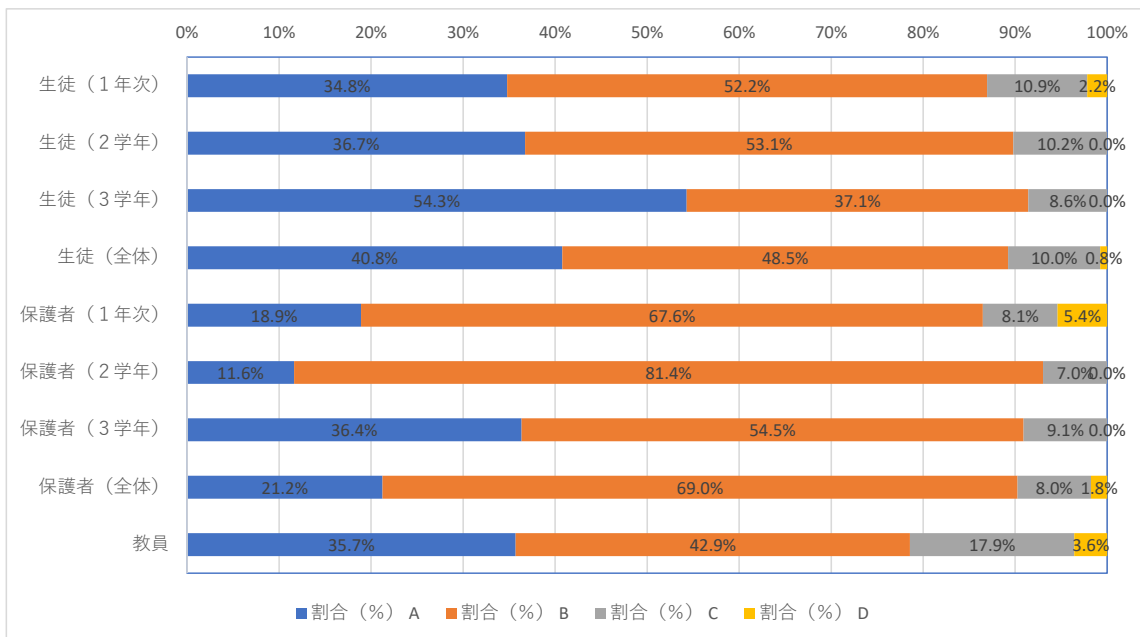
○A及びBの割合は、生徒全体91.6%、保護者全体93.8%、教員96.9%という回答が得られた。進路ガイダンスや講演会、説明会、課外などが充実したものになっているようだ。今後もガイダンス等を通して意識づけを行っていきたい。

3. 「進路の手引き」を活用しながら、学年に応じた進路指導が行われている（を行っている）。



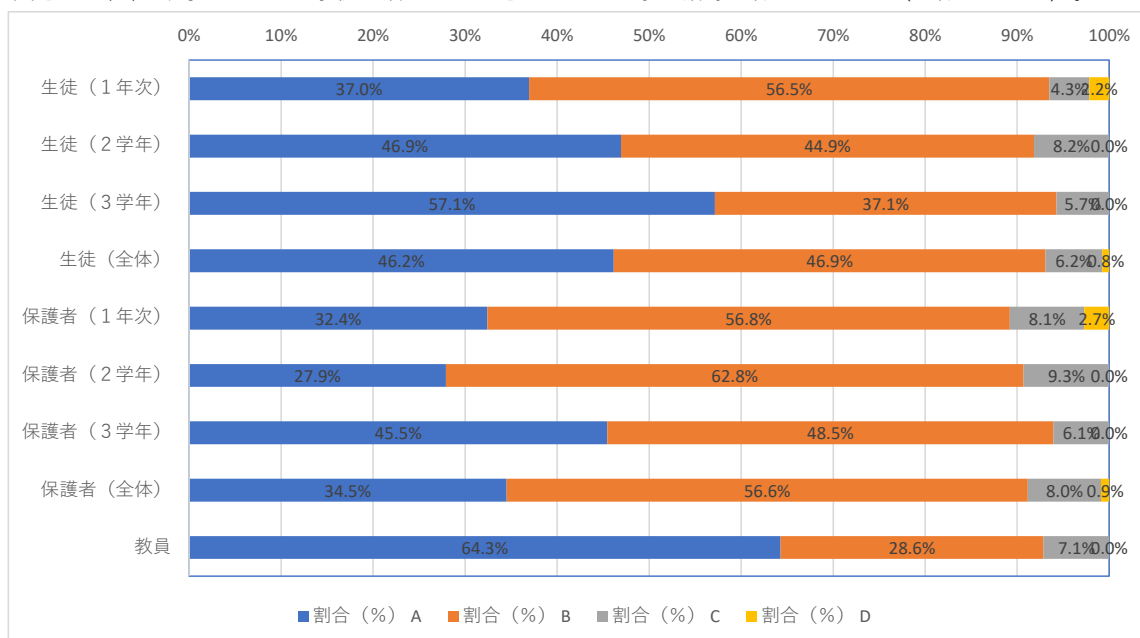
○A及びBの占める割合は、生徒全体86.1%、保護者全体86.7%、教員89.3%の回答を得た。学年に応じて、適切に使用されているようだ。必要に応じて、積極的に活用させていきたい。

4. 総合学科（1年生）または普通科（2・3年生）としての教育課程の特色や履修の仕組みが正しく理解できるよう、分かりやすい指導が行われている（を行っている）。



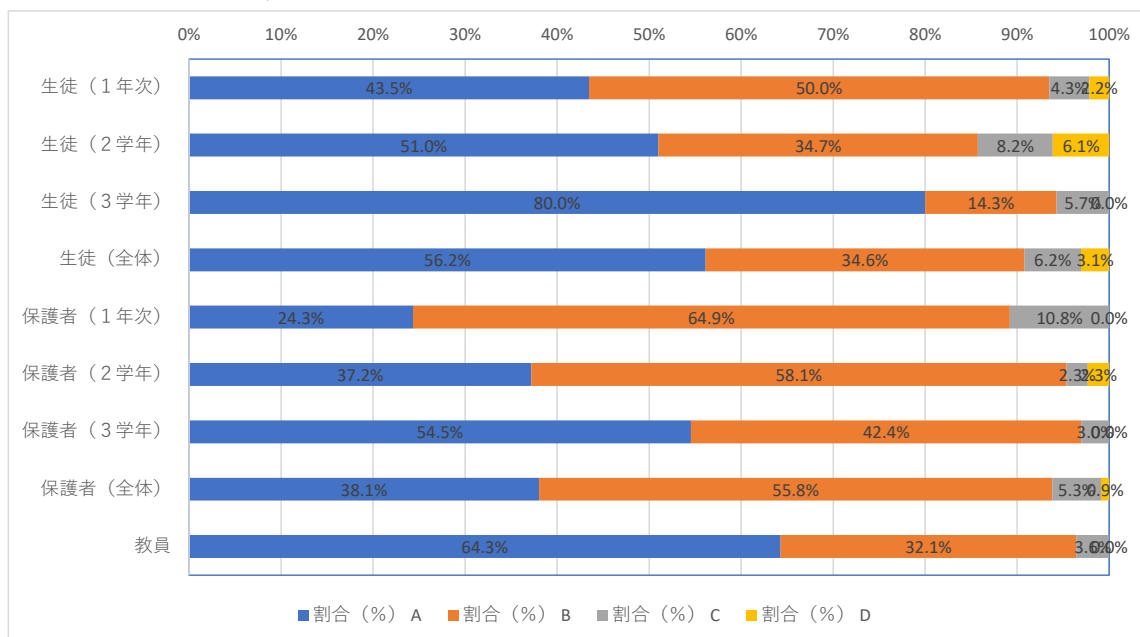
○1年次においては、総合学科スタートの年であるが、準備が十分でない部分があった。時間的な制約がある中で、もっと時間を確保できる工夫と、効果的な指導方法を次年度に向け考える。また保護者への説明の機会、方法についても考える必要がある。
 ○2学年においては、6月に各教科主任による選択科目説明会を、進学コースと環境科学コース、情報会計コースのそれぞれに対して実施している。生徒、保護者には、説明会を含め、学年団による学年便りの中での呼びかけや生徒状況に応じた面談の実施等の取り組みについて、概ね肯定的に捉えていただけていると考える。

5. 交通安全、社会的ルールなど学校生活を安全に送るための丁寧な指導が行われている（を行っている）。



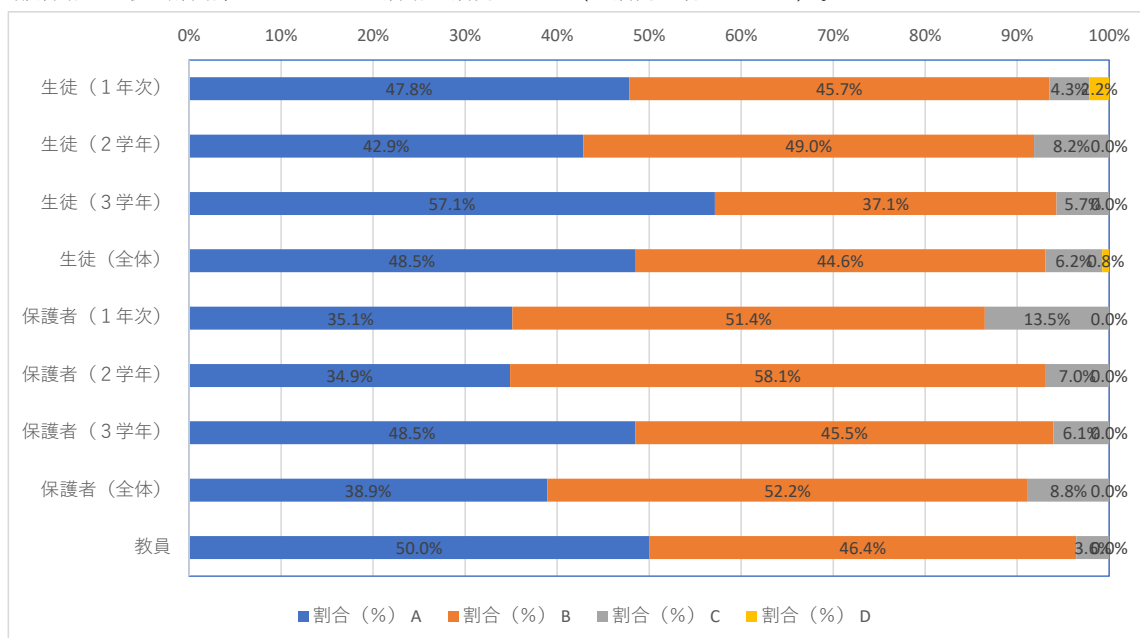
○交通安全等については、1学期の終業式に非行防止講話と兼ねて南会津警察署の協力のもと実施した。概ね当てはまるという結果であるが、社会的ルールや学校生活を安全に送るための指導を丁寧に行っていきたい。

6. 頭髪服装指導・あいさつや時間の厳守、基本的な生活習慣の定着に向けた丁寧な指導が行われている（について丁寧な指導を行っている）。



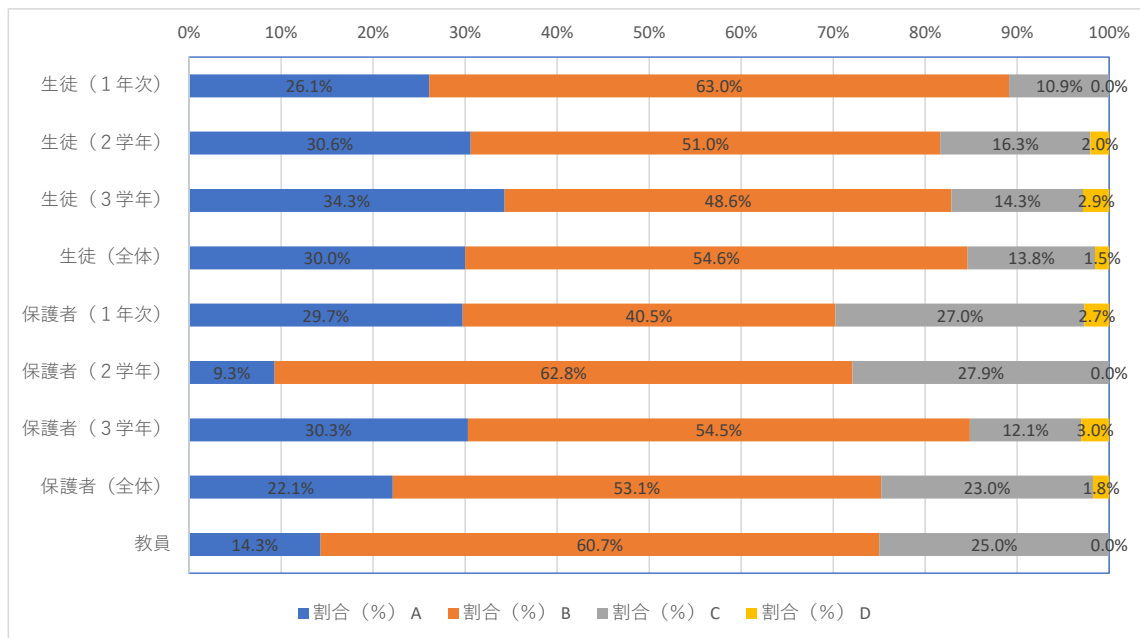
○3年生の生徒については、進学指導の最中であるせいか非常に良いアンケートの結果になっている。それ以外の結果を見てみると教員の感触と生徒・保護者の感じ方に差があるようである。より一層丁寧な指導が求められると思うので引き続き個別指導も含め丁寧な指導を心がけたい。

7. 部活動や生徒会活動、ボランティア活動が活発である（を活発に行っている）。



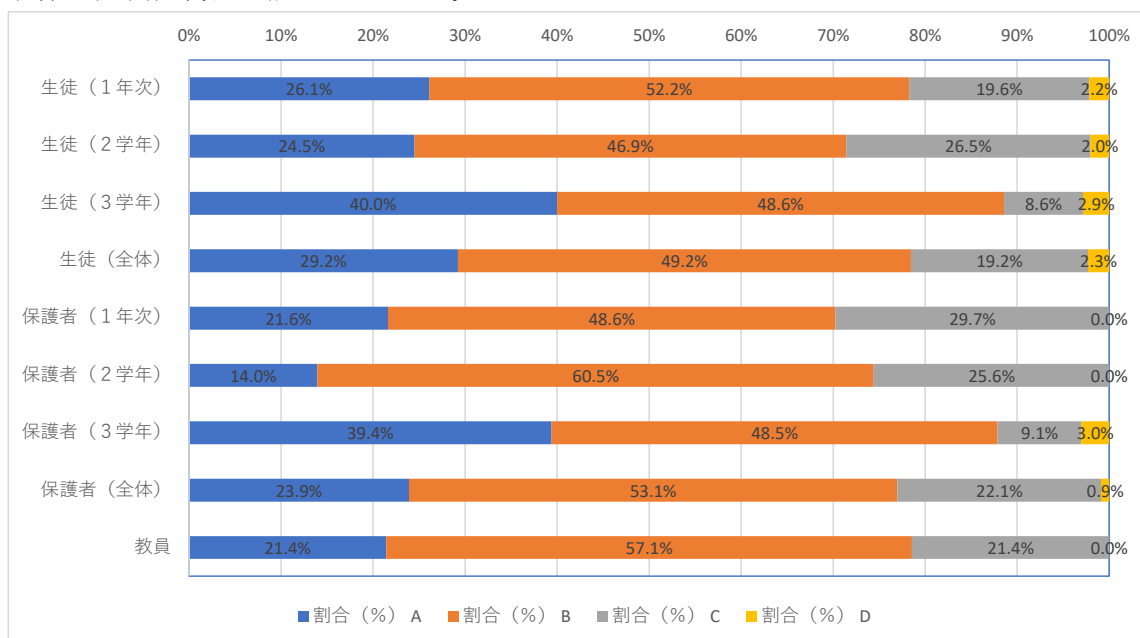
○全体的に良い結果となっていると思われる。今年度から1年次生の部活動強制入部の制度は撤廃したが、比較的部活動への加入率は良い。ただし、転部を希望する1年次生が複数おり、そのような生徒への対応は考えなければならない。

8. 充実した教育活動を行うための施設・設備が整っている。



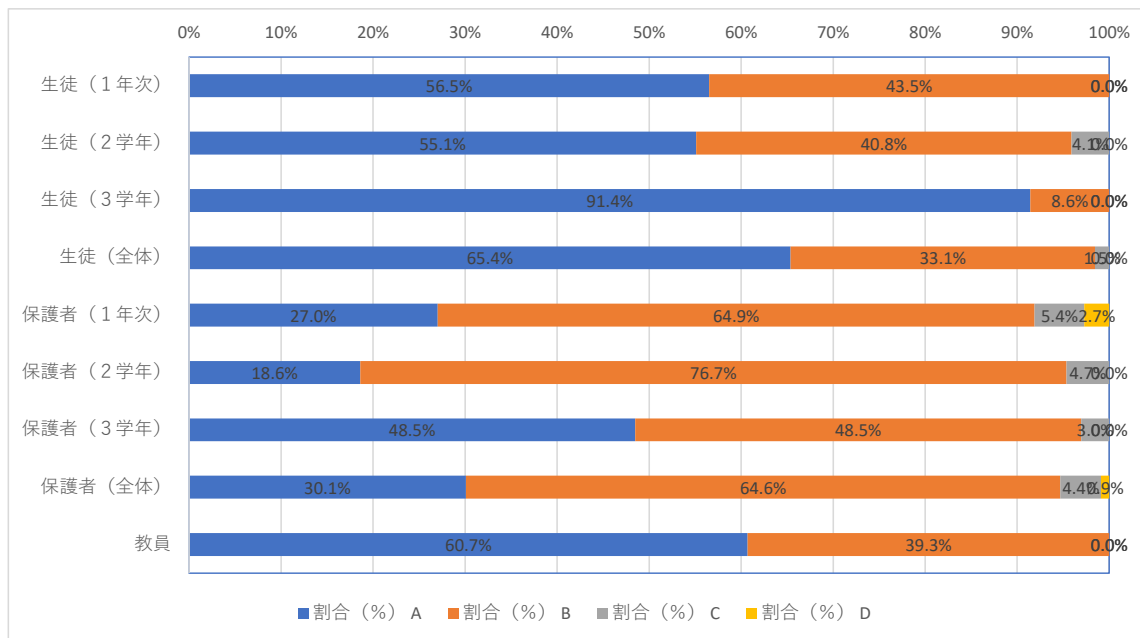
○今年度初めに図書館設備を一新した。個別学習ブース、グループ・探究学習スペースを新設し、蔵書検索や情報検索のためのパソコンを導入した。利用しやすい図書館を目指して工夫していきたい。

9. 校舎内外の美化環境の整備がなされている。



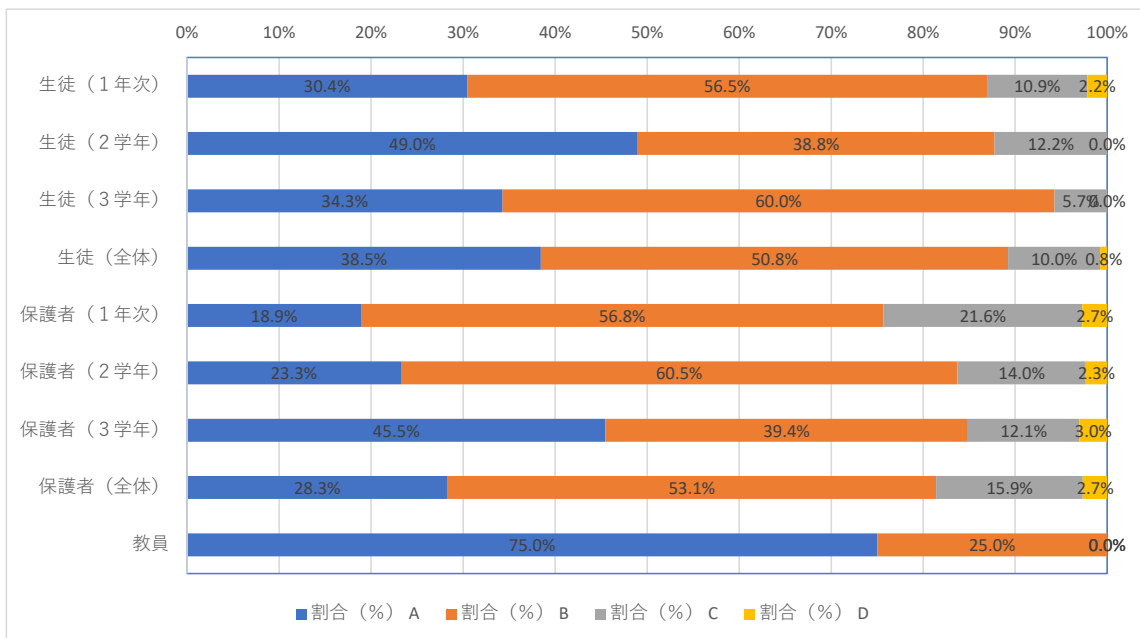
○A及びBの割合は、生徒全体78.4%、保護者全体77.0%、教員78.5%の回答が得られた。学習環境整備活動などでは、多くの方々に来校、ご協力いただいた。今後もより一層、美化環境の整備に努めていきたい。

10. 避難訓練など命を守るための安全教育が行われている（を行っている）。



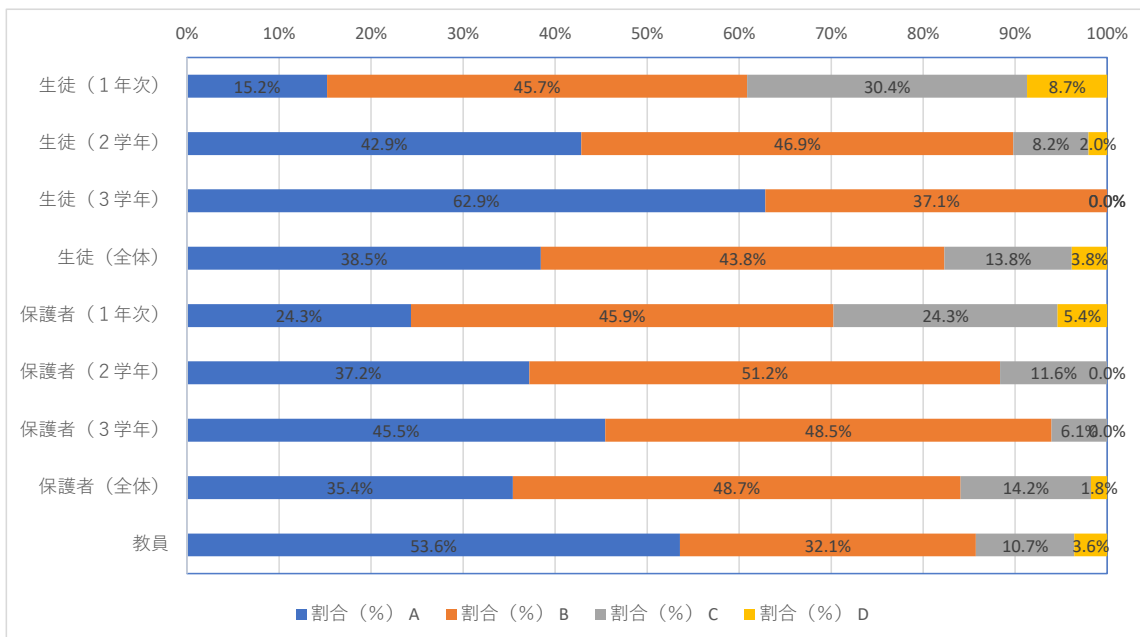
○A及びBの割合は、生徒全体98.5%、保護者全体94.7%、教員100.0%と高い回答を得ることができた。2回目の避難訓練を実施し、今後も防災意識を養いたい。

11. スクールカウンセラーとの相談をはじめ、相談しやすい雰囲気や体制が整備されている。【生徒・保護者】
 スクールカウンセラーとの相談をはじめ、教育相談体制は整備され、充実している。【教員】



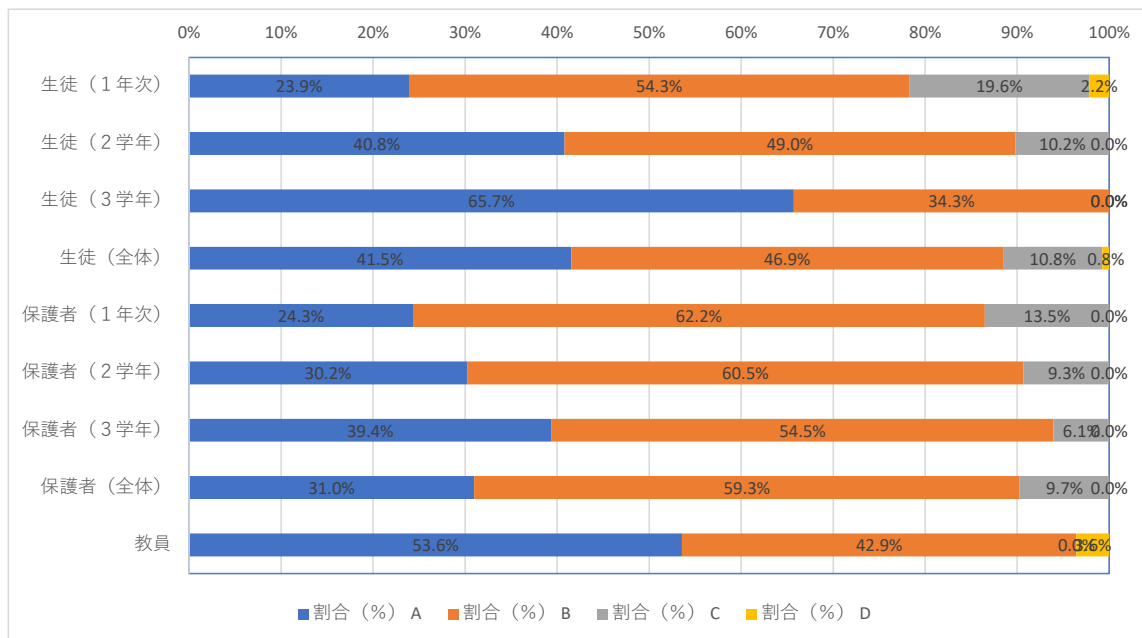
○概ね良い結果であるが、こちらの結果は教員の感触と生徒・保護者の感じ方に差を感じる。スクールカウンセラーによる教育相談の機会はあるが、保護者には情報が行き届いていないのかもしれない。情報発信の工夫が必要である。生徒に対するスクールカウンセラーによる相談は、一部の生徒にはとても還元できているが、偏りがあるかもしれない。ただし、現状の来校時間では限界がある。来校時間の確保を県にお願いしたい。

12. 必要に応じて、タブレットなどのICT機器を用いた授業が行われている（を行っている）。



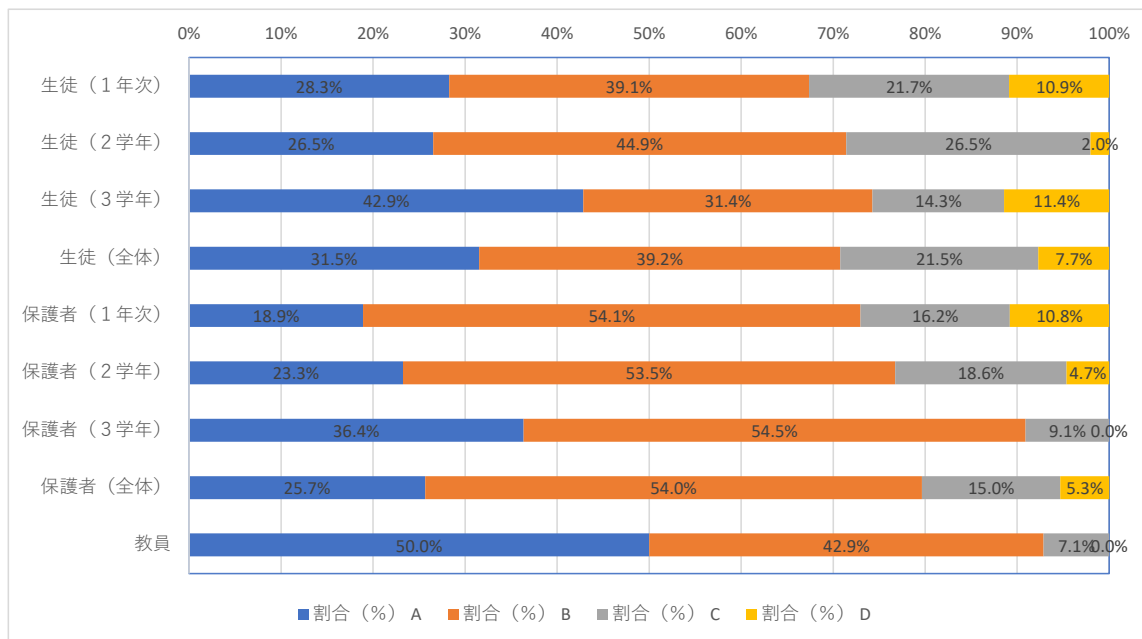
○1年次生へのタブレットの配付が例年より遅かったため、セットアップの時間がとれなかったことが影響している。授業などで教師の使用頻度が上がるにつれ、学年での情報機器の活用が向上しているとともに、クラスや学校行事等の連絡に使われていることがデータに表れている。

13. ホームページや配信メールなどを通じて、学校や生徒の活動について情報提供が行われている（を行っている）。



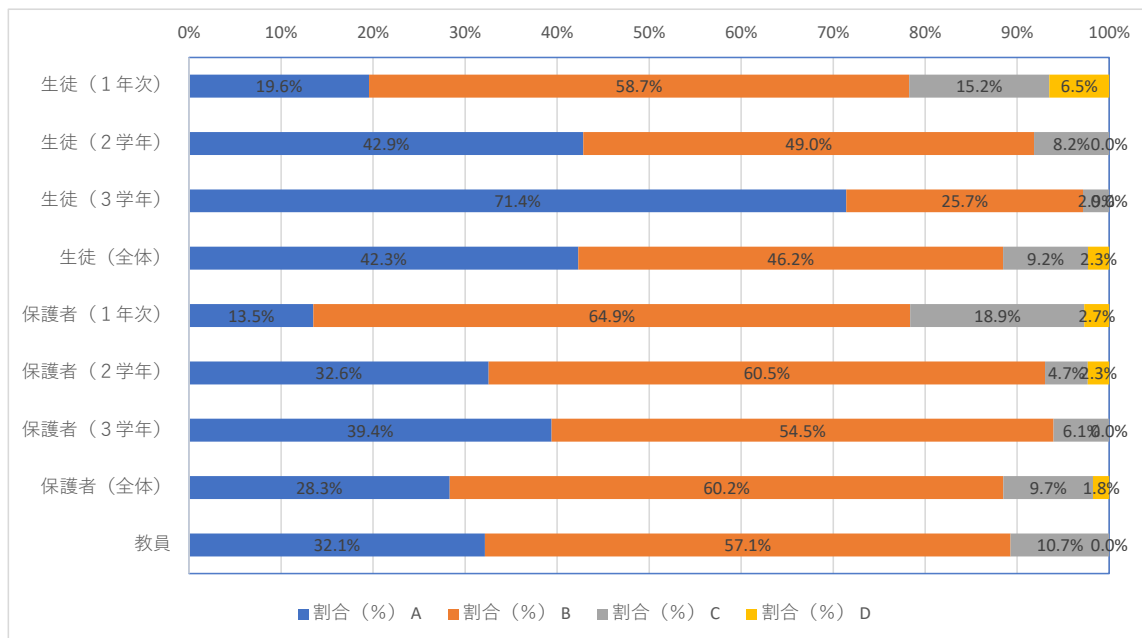
○教員の活用割合が増加している。このことは、年次が上がるにつれて情報機器やICTを活用する頻度が増加していること、学校・生徒・保護者ともに情報機器の活用がスムーズに行われていることを示していると考えられる。今後とも、モラルを持った使用方法を指導しつつ、タイムリーな情報共有がなされるように進めていくことが必要である。

14. 連携している中学校との活動（中学校の先生が高校で行う交流授業、草花を植える活動、部活動の合同練習など）を通して中学校との交流がなされている。



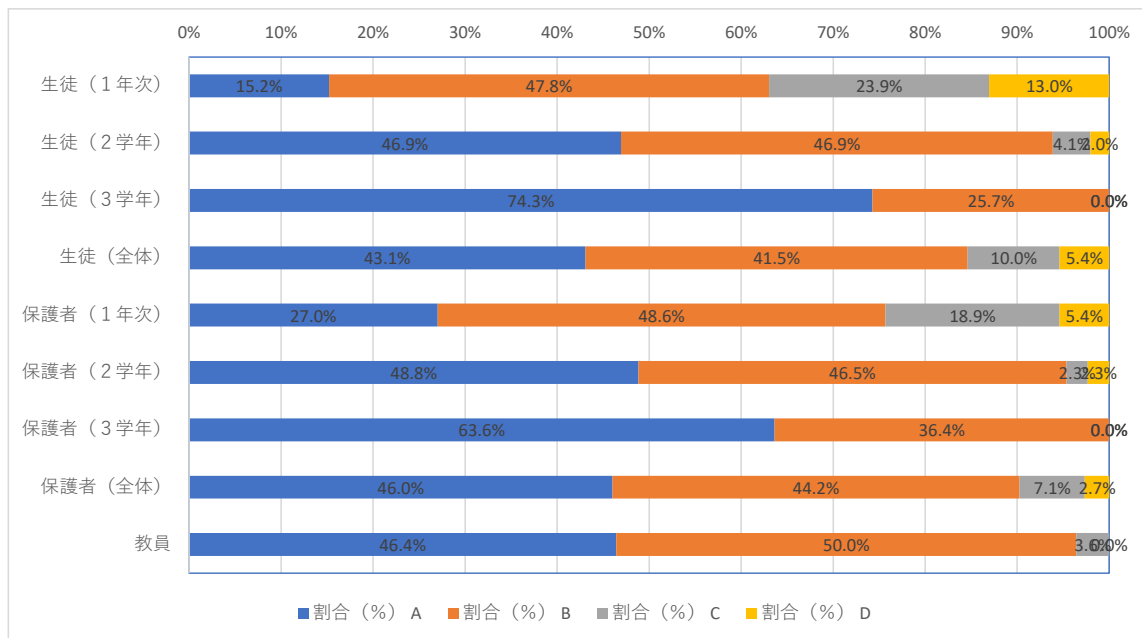
○教員と生徒・保護者の意識の乖離が大きい。生徒自身が中学校と交流する場面を増やすことができれば、評価が高まると思われる。高校生が主体となって中学生と交流する機会を増やし、保護者への情報発信をしていく方法を検討する。

15. 南会津町や地元企業などと連携しながら、地域を深く知るための学び（探究型学習）が行われている（を行っている）。



○学年が進むにつれ理解度が深まっていることがわかる。3年間継続して取り組んでいる成果が現れている。今後は特に南会津西部地区との関係を深めていく必要がある。

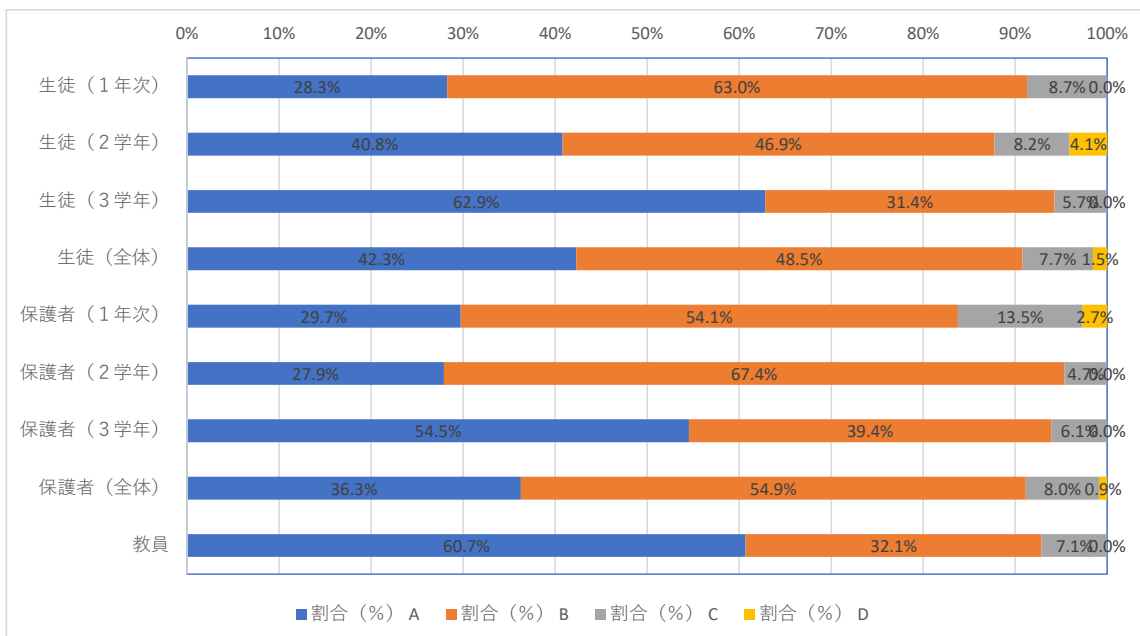
16. 除雪ボランティアなどを通じて、地域への貢献が行われている（に貢献している）。



○ (3 学年) 「南会津学」や除雪ボランティアを通して、地域の魅力発見や地域の方々との触れ合いの機会が生まれ、それにより郷土愛や自己有用感が育まれ、数値に表れていると感じる。
 ○ (2 学年) 様々な活動を通して、地域のことに関心をもつことができていると感じる。そのため、地域のためにできることを考えて取り組み、貢献したいという思いの表れとなり、このような結果につながっていると考え。
 ○ (1 年次) 除雪ボランティアを実施していないため、A評価が少なかったと感じた。学年としては、担当が思っている以上にサマーショートボランティアの参加が多かったため、次年度も積極的に参加させたいと感じた。

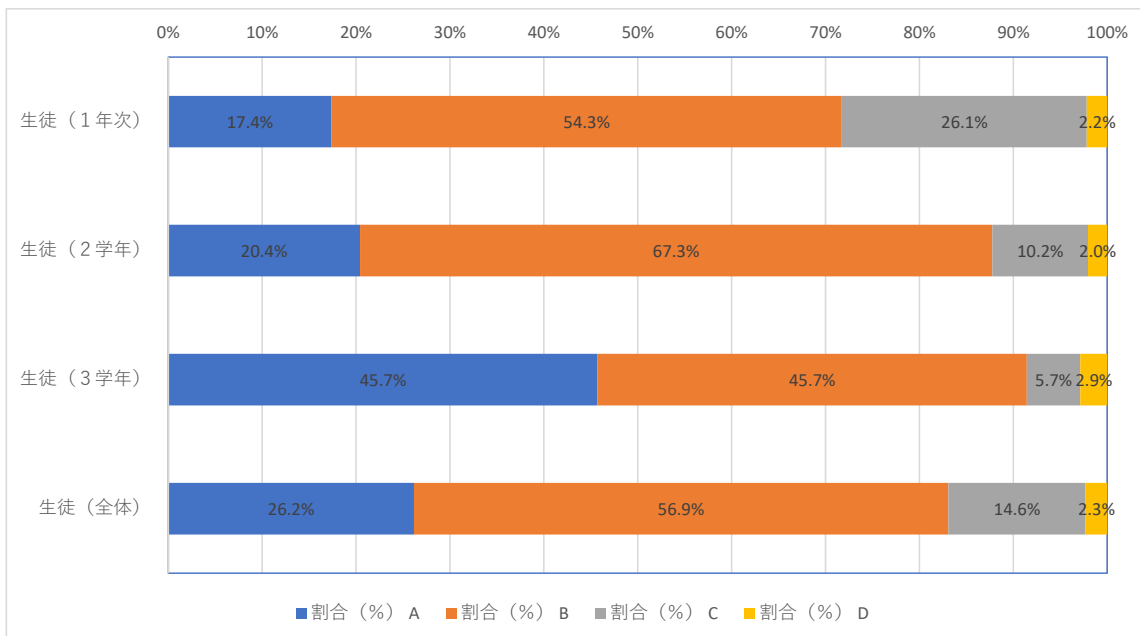
A：良く当てはまる B：やや当てはまる C：あまり当てはまらない D：全く当てはまらない

17. 定期的に面談を実施するなどして、相談や要望に丁寧な対応がなされている（に対応している）。



- (3 学年) 今年度は、特に進路に関わる連絡や面談を生徒・保護者と密に行ってきたため、概ね良好な数値になっていると分析する。今後も、様々な場面で生徒や保護者に対する支援を継続していきたい。
- (2 学年) 面接週間だけでなく、三者面談を行ってきた。必要に応じて、進路や人間関係等に関して生徒との二者面談や保護者も含めた三者面談等を行い、対応してきた結果と考える。今後も適宜面談を行いながら丁寧な対応をしていきたい。
- (1 年次) 学期ごとの被害調査をもとに二者面談をすることができた。また、夏休み中に、三者面談を実施することができた。今後も生徒の様子を確認しながら定期的に面談を実施したい。

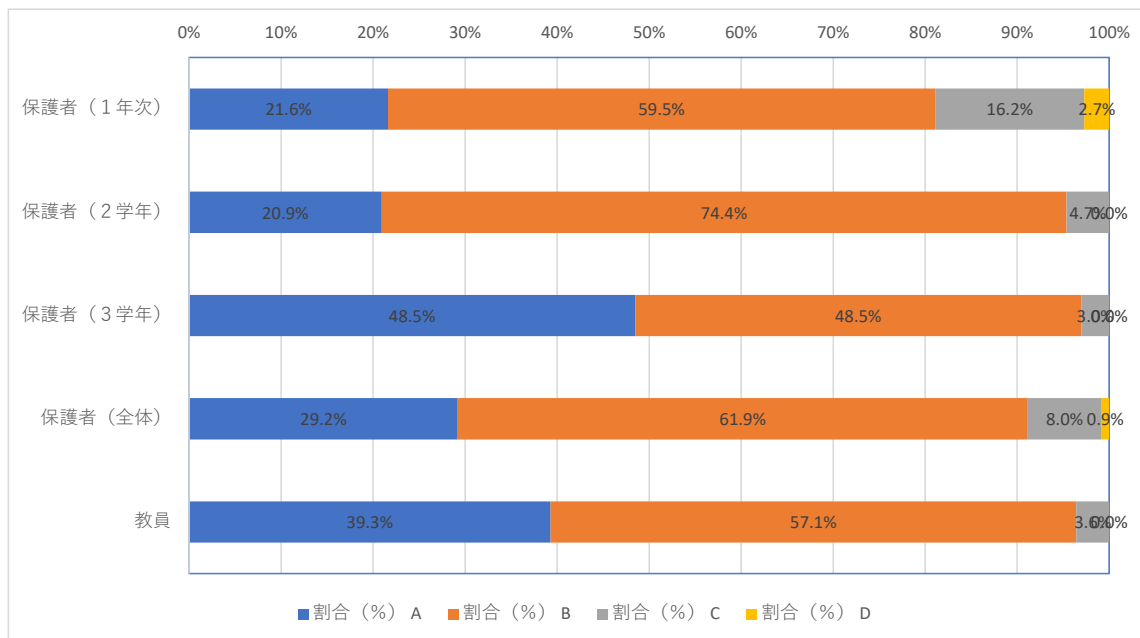
18. (私は、) 授業を通して、学力が向上していると感じている。【生徒】



- 各教科担当者が年度初めにシラバスを作成し、生徒の実態やニーズ等を踏まえた授業に対する見直し、新学習指導要領の実施に伴う指導方法の改善や、観点別学習状況の評価に関する全体での評価・改善に取り組んでいる。学年が上がるにつれて肯定的な回答が増加しているため、引き続き粘り強く指導にあたっていきたい。

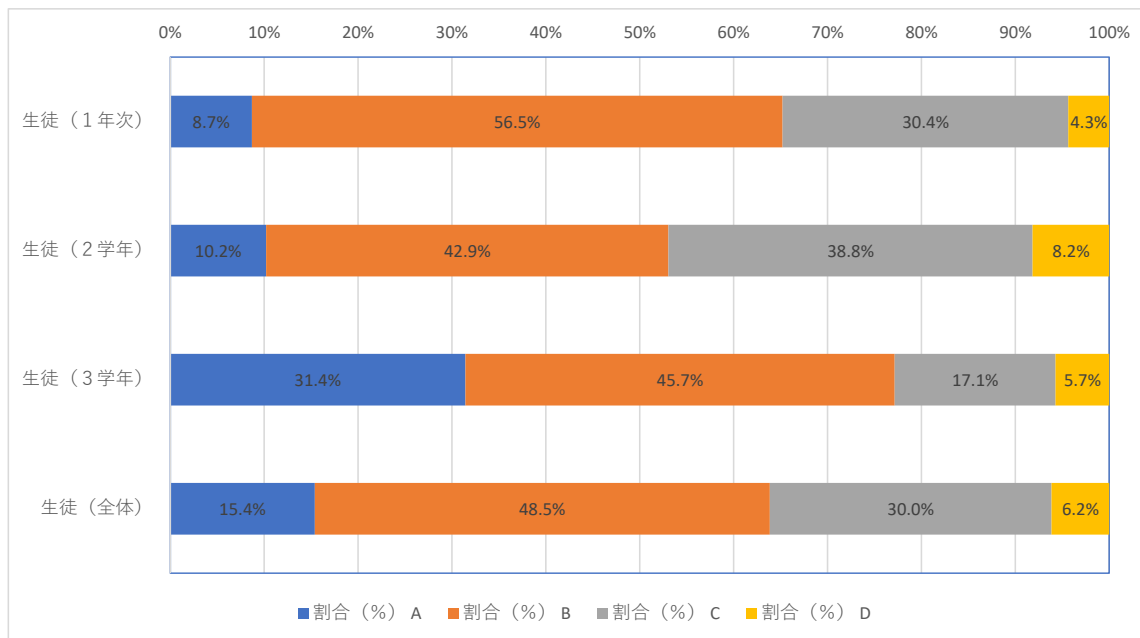
19. 学校は、生徒の学力向上に向けて、積極的に取り組んでいる。【保護者】

生徒の学力向上に向けて、積極的に取り組んでいる。【教員】



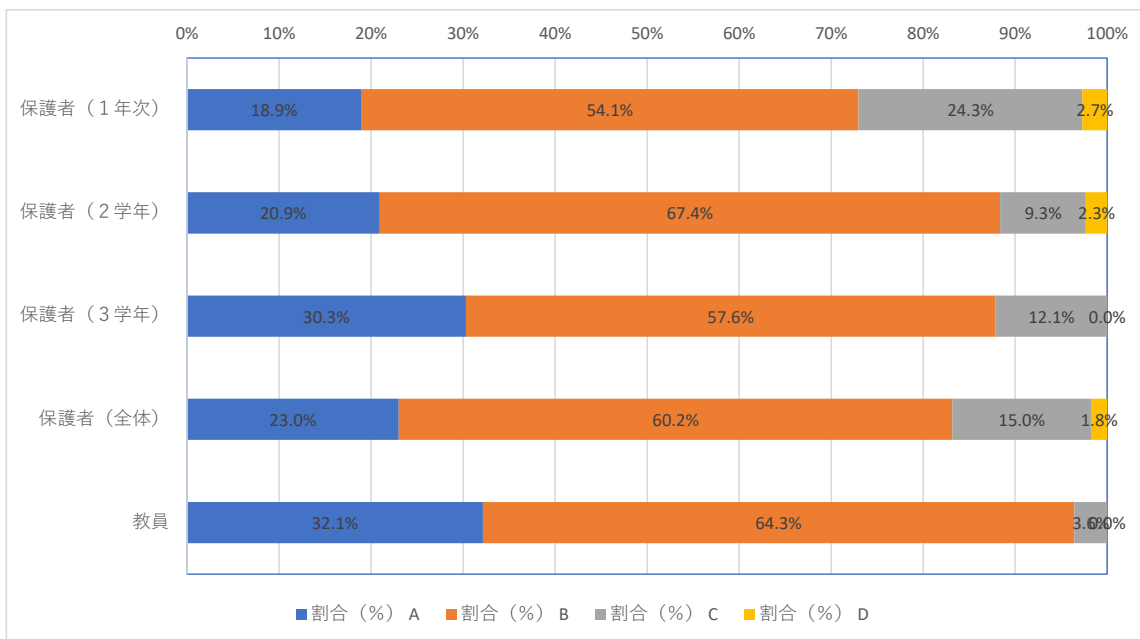
○生徒結果（質問項目18）と同様に、保護者からの回答も学年が上がるにつれて肯定的回答が増加している。新学習指導要領の内容を踏まえ、各教科等における指導方法の工夫・改善と、観点別学習状況の評価の実施における課題を明確にし、改善に向けた取り組みを行っていく。

20. (私は、) 自学・自習 (予習・復習) の習慣や意識が身に付いていると感じている。【生徒】



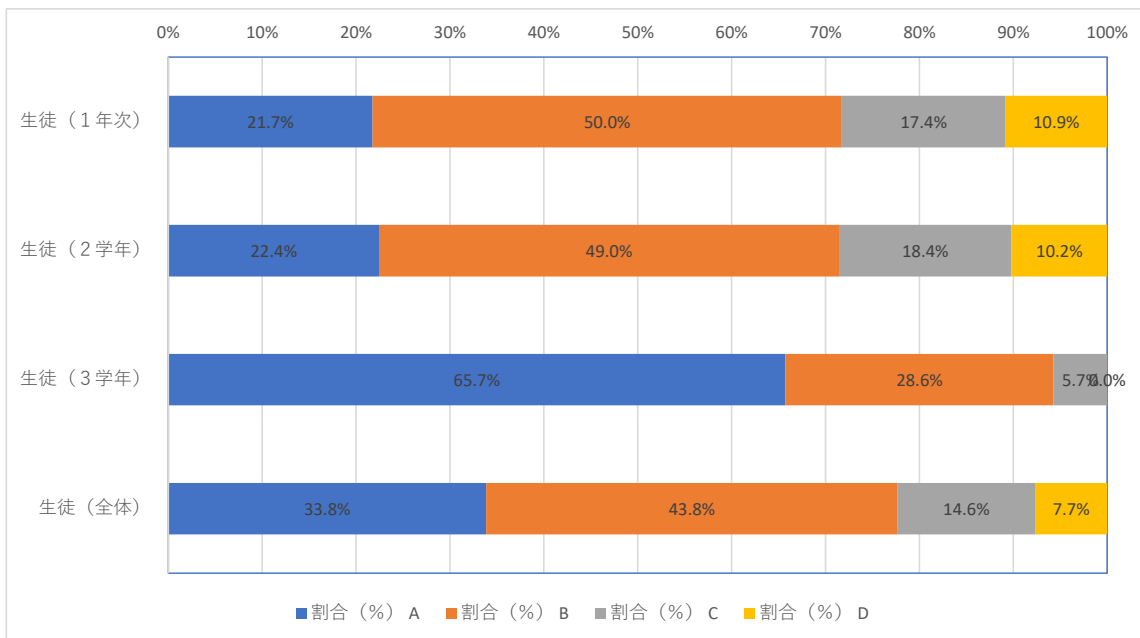
○国語、数学、英語における基礎・基本の定着を図るための朝自習や課外、各教科による個別指導等を実施した。各学年・教科を中心に取り組み、概ね学習の意識や習慣の定着を図ることができた。また、3学年においては就職試験等に向けた指導を行い、自学自習スペースや図書館を利用する生徒が多く見られた。

21. 父母と教師の会について、保護者と教職員が連携して活動が行われている。【保護者・教員】



○全体としてA及びBの割合が保護者で80%、教員で90%を超えており、データ上は両者の連携が図れていると読み取れる。実際に、朝の一声運動や祇園祭の街頭補導、環境整備活動と多数の保護者の皆様にご協力をいただいた。今後も十分に連携が図れるよう連絡調整を密にしていきたい。

22. (私は、) 自分の具体的な将来像 (進路目標など) が描けている。【生徒】



○A及びBの割合は1年次生71.7%、2年生71.4%、3年生94.3%になっている。1・2年生は漠然としている生徒もおり、さまざまな機会を利用し進路意識の高めたい。